

2026年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月10日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <https://www.alleanza-hd.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役会長兼CEO（氏名） 浅倉 俊一
 問合せ先責任者（役職名） 取締役経営戦略室長（氏名） 伊藤 和哉（TEL）024-563-6818
 半期報告書提出予定日 2025年10月15日 配当支払開始予定日 2025年11月4日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年3月1日～2025年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年2月期中間期	78,126	△0.8	3,039	66.5	3,297	61.8	2,023	65.9
2025年2月期中間期	78,759	4.0	1,825	△27.6	2,037	△27.1	1,219	△31.8

（注）包括利益 2026年2月期中間期 2,086百万円（77.3%） 2025年2月期中間期 1,176百万円（△36.4%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年2月期中間期	67.39	67.31
2025年2月期中間期	40.43	40.38

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年2月期中間期	94,817	33,305	33.8
2025年2月期	87,431	31,795	35.0

（参考）自己資本 2026年2月期中間期 32,074百万円 2025年2月期 30,602百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年2月期	—	19.00	—	19.00	38.00
2026年2月期	—	19.00	—	—	—
2026年2月期（予想）	—	—	—	19.00	38.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年2月期の連結業績予想（2025年3月1日～2026年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	155,000	1.1	3,750	6.9	4,250	7.5	2,200	5.4	72.86

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年2月期中間期	30,193,386株	2025年2月期	30,193,386株
② 期末自己株式数	2026年2月期中間期	170,127株	2025年2月期	173,038株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年2月期中間期	30,021,698株	2025年2月期中間期	30,168,619株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	7
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(セグメント情報等)	11
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2025年3月1日~2025年8月31日)におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に国内景気は緩やかな持ち直し基調であるものの、年初に実施された政策金利引上げに伴う金利負担や米国関税政策の動向、長引く円安の影響もあり依然として先行き不透明な状況が続いております。

流通小売業界においては、賃上げによる所得環境の改善はあるものの物価上昇に対して実質賃金の上昇が伴っていないことから消費者の節約志向や生活防衛意識が強く、継続的な客数減少や買い控えによる買上点数の減少が続いており消費改善にはいたっておりません。また、エネルギー価格をはじめとして人件費、物流費、建築費などコスト高が続くなかで一層企業収益確保が厳しい経営環境が続いております。

このような状況下で、当社グループは「Challenge3000」営業収益3,000億円、経常利益率5%をグループ目標として掲げ、中期成長戦略として中核事業であるホームセンター事業の収益基盤を強化するため「MD改革」としてPB商品の売上比率20%の実現と地域一番商品の育成を重点課題とするとともに、物流面から過剰在庫削減、物量の平準化、EDIデータを活用するなどインフラを構築しプロフィット物流による物流センターの収益改善を図ること、そして業務オペレーションとしてコスト削減、値下抑制やロス対策などの改善活動を全社で推進し人時生産性の向上に取り組んでおります。

当中間連結会計期間における新規出店としましては、ペット専門店4店舗、プロショップ1店舗を新たに開設し、ペット専門店1店舗、自転車専門店3店舗(うち2店舗はホームセンター店舗への併合)、オフィス専門店1店舗、フィットネスクラブ2店舗をそれぞれ閉店しております。これにより当中間連結会計期間末の店舗数は301店舗となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社グループ(当社及び連結子会社)の連結営業収益は、781億2千6百万円(前年同期比0.8%減)、連結営業利益は30億3千9百万円(前年同期比66.5%増)、連結経常利益は32億9千7百万円(前年同期比61.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は20億2千3百万円(前年同期比65.9%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[ダイユーエイト]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で5.5%減少し、客単価が前年同期比で2.5%増加したことにより既存店売上高は3.2%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、ホームセンター事業の主力商品である園芸、農業資材などホームニーズ商品の売上が、期初からの温暖な天候と併せて家庭用除草剤、用土、化成肥料、堆肥類を中心に伸長したほか、精米価格の高騰を受けて精米の売上が前年同期比で伸長いたしました。またダイユーエイト50周年大創業祭を実施したことで期間中の売上が前年同期比で大幅伸長いたしました。中間期全体を通して節約志向、買控えによる客数減少、買上点数減少の影響が大きく既存店売上高は前年同期比で減収となっております。

E.C部門につきましては、取扱高も年々伸長の一途をたどっている中で、物流費などのコスト増もありますが、いち早い新製品の導入や取扱い品目の拡大、即日発送対応といったユーザーサービスの向上に努めたこともあって前年同期比で売上高が伸長したことにより、全社ベースの売上高は前年同期比で増収となっております。

コスト面につきましては、既存店改装による一時費用や給与の上昇、集配送費の増加、キャッシュレス決済手数料、ECサイト販売手数料などのコスト負担増加がありますが、コストコントロールの削減活動を実施したことにより販売費及び一般管理費は計画数値内で推移するとともに前年同期比においても減少しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は243億9千6百万円(前年同期比0.0%増)、セグメント利益(営業利益)は11億4千8百万円(前年同期比148.8%増)となりました。

[タイム]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で6.6%減少、客単価が前年同期比で3.3%増加したことにより既存店売上高は3.5%減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、主力部門である園芸・植物部門においては散水用品や肥料、農業資材部門においては収穫用品、農業機械が好調に推移しました。また猛暑日が続いたことで飲料水や熱中症対策商品の売上が前年比で伸長しましたが、花苗など植物部門が低調であったほか、節約志向が根強いなかで、客数減少の影響が大きく既存店売上高は前年同期比で減収となっております。

当中間期は、既存店活性化として1店舗の改装を実施し、お客様に新たな発見をしていただけるよう新商品、話題商品への取組み、テーマ性のある売場づくりによる需要創造、自社生産の花苗「Time's Farm」の魅力発信による販売力強化に取り組んでおります。

コスト面につきましては、チラシ広告配付エリアの見直しや紙ベースからデジタル販促へ段階的にシフトしたことでコスト削減が出来たこと、作業計画に合わせた人員配置を行うことで残業時間の削減を進めコスト圧縮を図ったことにより前年同期比で販売費及び一般管理費は減少しております。

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は80億4千万円(前年同期比3.3%減)、セグメント利益(営業利益)は3億3千2百万円(前年同期はセグメント利益6百万円)となりました。

[ホームセンターバロー]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で5.5%減少、客単価が前年同期比で4.2%増加したことにより既存店売上高は1.5%の減少となりました（ペットフォレストの数値を前連結会計年度期首から除いて比較しております。）。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、期初春先は、種苗部門において契約農家との継続的な取組みにより品揃えの強化、早期展開から晩期までの商品を確保したことで前年同期比で売上が伸長しました。夏季は東海地方の記録的猛暑で、エアコン、夏物衣料が好調に推移いたしました。中でも「空調服」は熱中症対策義務化もあったことで、プロサイト店舗を中心に前年同期比で大きく伸長しましたが、一方で、この猛暑で屋外作業用品、レジャー・ビーチ関連用品は大きく前年割れの結果であったほか、前年の「南海トラフ地震情報」があったことで伸長した防災用品、飲料水などの前年特需の反動減の影響もあり、継続する客数減少の影響も大きく中間期全体を通して減収となっております。

コスト面につきましては、水道光熱費の単価上昇があるものの使用料の削減に取り組んだことで、計画内で推移しております。

当中間期においてホームセンターは、旗艦店である稲沢平和店の全体改装を実施したほか、6月には各務原中央店の改装を行い、主に介護、室内植物、防災・防犯、サイクル、木材、リフォームカテゴリーの変更を行いました。また、池田店、千音寺店におきましても、これらカテゴリーの部分改装を実施しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は283億5千9百万円（前年同期比8.2%減）、セグメント利益（営業利益）は12億7千6百万円（前年同期比38.4%増）となりました。

[アミーゴ]

ペットワールドアミーゴは既存店ベースで、客数が前年同期比で1.8%減少、客単価が前年同期比で0.0%減少したことにより既存店売上高は1.8%減少となりました（ペットフォレスト及びジョーカーの数値を前連結会計年度期首から含めて比較しております。）。

当中間期における商品別販売動向として、アミーゴブランドについては、主力部門である犬フード部門、猫フード部門においてそれぞれプレミアムフードやおやつといった主力カテゴリーが伸長しております。生体部門についてはアクア部門においてメダカやシュリンプ、小動物部門において鳥類の販売強化に取り組んでおりますが、犬猫生体の販売頭数減少、単価下落の影響が大きく前年同期比で売上高は減少しております。ペットフォレストブランドについては、トリミングサービスが好調に推移したことやアミーゴと連携したおすすめ品種の販売強化に取り組んだことで小動物生体の売上高が増加しましたが、犬・猫フードの売上高が減少したことで既存店ベースの売上は前年同期比で減少しております。ジョーカーブランドについてはサービス部門のトリミングメニューを充実させたことでトリミングサービスは好調でありましたが、犬猫生体の販売頭数が減少した影響で前年同期比で減収となっております。

中間期の新規出店としてはペットワールドアミーゴ4店舗を出店しており、引き続きドミナントエリアの拡大・深耕とペット市場のシェア拡大を目的として積極的な出店を実施してまいります。

コスト面につきましては、人件費の上昇やキャッシュレス比率の上昇でコスト負担が増加したほか、新規出店における一時費用が発生したことで販売費及び一般管理費は前年同期比で増加しております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は144億1千7百万円（前年同期比31.7%増）、セグメント利益（営業利益）は2億4千万円（前年同期比50.5%減）となりました。

[その他]

セグメント営業収益は73億5千6百万円（前年同期比21.2%減）、セグメント利益（営業利益）は10億2千6百万円（前年同期比32.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が948億1千7百万円、負債が615億1千1百万円、純資産は333億5百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は33.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2025年4月10日付「2025年2月期決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値に変更ありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (2025年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,036	10,379
売掛金	2,356	3,332
棚卸資産	27,639	27,475
未収入金	4,906	5,293
その他	1,295	1,240
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	40,234	47,722
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	52,022	52,989
減価償却累計額	△27,875	△28,470
建物及び構築物(純額)	24,147	24,518
土地	4,414	4,414
リース資産	3,387	3,182
減価償却累計額	△1,750	△1,803
リース資産(純額)	1,636	1,378
その他	9,348	9,377
減価償却累計額	△7,430	△7,594
その他(純額)	1,918	1,782
有形固定資産合計	32,117	32,095
無形固定資産		
のれん	1,366	1,314
その他	5,255	5,298
無形固定資産合計	6,621	6,613
投資その他の資産		
敷金及び保証金	6,330	6,259
その他	2,156	2,155
貸倒引当金	△27	△27
投資その他の資産合計	8,458	8,386
固定資産合計	47,197	47,095
資産合計	87,431	94,817

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (2025年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,695	14,815
電子記録債務	6,482	5,351
短期借入金	7,444	5,186
1年内返済予定の長期借入金	4,761	4,847
リース債務	1,035	695
未払法人税等	497	1,188
役員賞与引当金	32	—
契約負債	993	889
賞与引当金	559	648
その他	6,654	7,302
流動負債合計	37,156	40,925
固定負債		
長期借入金	12,661	14,641
リース債務	1,187	1,275
役員退職慰労引当金	148	152
株式報酬引当金	35	53
退職給付に係る負債	1,000	1,025
資産除去債務	1,853	1,880
その他	1,593	1,558
固定負債合計	18,479	20,585
負債合計	55,636	61,511
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,011	2,011
資本剰余金	12,509	12,509
利益剰余金	16,142	17,592
自己株式	△188	△185
株主資本合計	30,475	31,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	41
退職給付に係る調整累計額	113	104
その他の包括利益累計額合計	126	145
新株予約権	19	19
非支配株主持分	1,173	1,211
純資産合計	31,795	33,305
負債純資産合計	87,431	94,817

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)
売上高	76,521	75,792
売上原価	50,794	48,647
売上総利益	25,727	27,144
営業収入	2,238	2,334
営業総利益	27,965	29,478
販売費及び一般管理費	26,139	26,439
営業利益	1,825	3,039
営業外収益		
受取利息	12	13
受取配当金	4	5
受取手数料	215	229
為替差益	20	23
その他	120	116
営業外収益合計	373	388
営業外費用		
支払利息	77	109
借入手数料	67	4
その他	16	17
営業外費用合計	161	130
経常利益	2,037	3,297
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	61	1
特別利益合計	61	1
特別損失		
固定資産売却損	—	21
固定資産除却損	6	11
減損損失	152	0
投資有価証券評価損	4	—
閉店損失引当金繰入額	66	—
その他	7	1
特別損失合計	238	34
税金等調整前中間純利益	1,861	3,264
法人税、住民税及び事業税	742	1,184
法人税等調整額	△135	15
法人税等合計	606	1,200
中間純利益	1,254	2,063
非支配株主に帰属する中間純利益	34	40
親会社株主に帰属する中間純利益	1,219	2,023

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)
中間純利益	1,254	2,063
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△45	31
退職給付に係る調整額	△32	△9
その他の包括利益合計	△77	22
中間包括利益	1,176	2,086
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,161	2,042
非支配株主に係る中間包括利益	15	44

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,861	3,264
減価償却費	1,633	1,718
減損損失	152	0
のれん償却額	59	53
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△14	11
株式報酬費用	25	15
受取利息及び受取配当金	△17	△18
支払利息	77	109
借入手数料	67	4
投資有価証券売却損益 (△は益)	△61	△1
投資有価証券評価損益 (△は益)	4	—
固定資産売却損益 (△は益)	△0	21
固定資産除却損	6	11
売上債権の増減額 (△は増加)	△621	△976
棚卸資産の増減額 (△は増加)	473	163
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,540	4,989
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△26	56
未収消費税等の増減額 (△は増加)	76	—
その他	1,045	606
小計	9,282	10,029
利息及び配当金の受取額	7	26
利息の支払額	△80	△112
借入手数料の支払額	△67	△4
法人税等の支払額	△57	△473
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,085	9,467

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	121	3
投資有価証券の償還による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△2,512	△1,601
有形固定資産の売却による収入	2	12
有形固定資産の除却による支出	△3	△8
無形固定資産の取得による支出	△114	△37
貸付けによる支出	△0	—
貸付金の回収による収入	1	1
敷金及び保証金の差入による支出	△285	△103
敷金及び保証金の回収による収入	145	176
定期預金の預入による支出	△250	△286
定期預金の払戻による収入	381	146
その他	△55	△37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,570	△1,736
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,827	△2,258
長期借入れによる収入	3,800	4,700
長期借入金の返済による支出	△2,593	△2,634
リース債務の返済による支出	△453	△755
配当金の支払額	△574	△573
自己株式の取得による支出	△166	△0
非支配株主への配当金の支払額	△3	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,817	△1,527
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,696	6,202
現金及び現金同等物の期首残高	3,546	3,889
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,243	10,092

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	23,974	8,221	30,864	10,946	74,008	4,751	78,759
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	415	96	16	—	528	4,587	5,115
計	24,390	8,317	30,880	10,946	74,536	9,338	83,875
セグメント利益	461	6	922	484	1,875	1,517	3,392

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,875
「その他」の区分の利益	1,517
セグメント間取引消去	△1,474
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	13
その他	△57
中間連結損益計算書の営業利益	1,825

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ダイユーエイト」、「ホームセンターバロー」および「アミーゴ」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間において、「ダイユーエイト」40百万円、「ホームセンターバロー」100百万円、「アミーゴ」0百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「ホームセンターバロー」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、100百万円であります。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)に当該のれんの減損損失も含めて記載しております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	24,010	7,970	28,357	14,417	74,755	3,371	78,126
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	386	70	2	—	459	3,985	4,444
計	24,396	8,040	28,359	14,417	75,214	7,356	82,571
セグメント利益	1,148	332	1,276	240	2,997	1,026	4,024

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト及びタイムそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,997
「その他」の区分の利益	1,026
セグメント間取引消去	△892
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	12
その他	△57
中間連結損益計算書の営業利益	3,039

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ホームセンターバロー」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては0百万円であります。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。